

## 単元名 1 学びをひらく シンシユン

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 文脈の中における語句の意味を正確に捉え、理解することができる。  
 (2) 登場人物の心情や行動に着目して、作品の理解を深めるとともに、気持ちの変化を捉えることができる。  
 (3) 作品中の登場人物の姿から、自分自身の生活を見つめ、新しい仲間との関わりについて振り返ろうとする。

## 標準的な展開例

10210103\_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 単元の学習課題をつかむ。          ○ 本単元の学習課題をつかむ。          ★ 場面の展開や描写に注意して読むとともに、変化する登場人物の関係について捉えよう。          ○ これまでに読んだ「小説」について思い出す。          ○ 全文を音読し、初読の感想をまとめる。          ○ 初読の感想を発表する。          ○ 新出漢字、音訓について学習し、分からない語句について調べたり、文脈から考えたりする。</p> <p>2 登場人物や場面の展開を確かめる。          ○ 本時の学習課題をつかむ。          ★ 登場人物や場面の展開を確かめよう。          ○ 全文を音読する。          ○ 主な登場人物を確認する。          ○ 作品を三つの場面に分け、それぞれの内容を捉える。</p> <p>3 場面の展開に沿って、二人の関係の変化を整理する。          ○ 本時の学習課題をつかむ。          ★ 場面の展開に沿って、二人の関係の変化についてまとめよう。          ○ 各場面を音読し、二人の関係を考える。          ○ 二人の関係がどう変化していったのかを話し合う。</p> <p>4 読み深めた感想を交流する。          ○ 本時の学習課題をつかむ。          ★ 読み深めた後の感想と初読の感想を比べてみよう。          ○ 読み深めた後の感想を書く。          ○ 初読の感想と読み深めた後の感想を比べる。          ○ どのように感想が変わったのかを伝え合う。          ○ 学習の振り返りをする。</p>	<p>・ 「シンシユンの目標」(p. 28)を確認させる。</p> <p>・ 小学校で学習した物語文に限らず、読書体験の中から自由に発表させる。          ・ 200字程度で書かせる。          【評】初読の感想を書く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。          【評】感想を発表する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。          ・ 辞書を用意させ、必要に応じて使用し、理解を深めさせる。</p> <p>・ 2～4人のグループを作り、グループ内で読み手と聞き手を交代して音読を行わせる。          ・ シンタとシュンタの相違点について押さえる</p> <p>・ 「誰が(誰と誰が)どうする(どうなった)場面」という形で簡単にまとめさせる。          【評】登場人物や場面の展開を読み取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 場面ごとに会話や描写を整理して、登場人物の心情や関係を捉えさせ、表にまとめる。          ・ 「場面の展開に着目する」(p. 18～p. 19)を参考にさせる。          ・ まとめた表をもとに、2～4人のグループで話し合わせる。          ・ 自分が気付かなかった意見や違う意見はメモを取っておくように指示する。          【評】二人の関係の変化についての話し合い活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 200字程度で書かせる。          【評】読みを深めた後の感想を書く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。          ・ 作者のインタビュー動画を見せ、自分の感想と比べて、感じたことを発表させてもよい。          ・ 4～5人のグループを作り、意見交換をさせる</p> <p>・ 場面の展開に着目することで、何が捉えられたか、自分の言葉でまとめさせる。          ・ 「文学的な文章を読むために」(p. 264)を参考にさせる。</p>

## 【 備 考 】

中学校における本格的な国語の学習の最初の段階である。この単元では小学校で身に付けた国語の力を確認させることが大切である。そのため、親しみやすい内容の物語を読むことを通して、中学校での国語の学習範囲や学習方法などへの見通しをもたせたい。

「シンシユン」は他者との違いを認め合い、それぞれの立場を尊重していく内容となっている。これは道徳のB-(9)相互理解・寛容にあたり、これを機会に級友との仲を深めさせたい。本教材は、中学校の国語学習において情報編集力を育成することをねらった最初のものである。領域としては「知識・技能」に当たるものの、ここでの学習を、説明する力の基盤として捉え、「思考・判断・表現」の領域にも反映させることを念頭に置いて指導に当たりたい。

「情報を整理して書こう」では、物事を説明する場合に「観点」があることを意識させ、情報を収集する力を育てる一歩としたい。「観点」を明確にすることで、取材する際に情報が分類整理しやすくなり、目的や相手に応じて何を語るべきなのかがはっきりとするように工夫させたい。

また、日常生活で行われる情報の伝達は、整理された分かりやすいものばかりでは決してなく、様々な情報が雑多に届けられる中で、自分への必要度に応じて語句を書き取らねばならないときもある。そのため、「情報を的確に聞き取る」では、自分にとって必要な情報を的確に聞き取る練習をして、実用的なメモを取り、生活に生かせるようにすることが重要である。「情報整理」を通して、様々な事柄を真剣に考え、知識や理解を深めることで、言葉の力を鍛えていきたい。また、情報を多角的に分析し、根拠に基づいて判断することで、論理的思考力を育てていきたい。

「漢字の組み立てと部首」では、漢字の学習に苦手意識をもっている生徒にも、中学校での学びに希望と期待をもたせたい。小学校で履修した漢字の成り立ちを振り返らせる活動でなぞなぞに取り組みさせるなど、意欲的な活動の工夫を考えていきたい。また、「形・音・義」の体系を成して組み立てられている漢字の系統性に着目させ、漢字の成立や発展に着目した歴史的文化的な視点を中学生にもたせることも大切である。